

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2014

課題番号：25870011

研究課題名(和文)台湾における宗教と利他主義に関する社会学的研究

研究課題名(英文)Sociology of Religiosity and Altruism in Taiwan

研究代表者

寺沢 重法(Terazawa, Shigenori)

北海道大学・文学研究科・助教

研究者番号：60632156

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、今日の台湾において宗教性がいかにして利他主義の形成要因となっているのかを「台湾社会変遷基本調査」というデータセットを用いて計量的に明らかにすることであった。分析の結果、寺廟などの宗教施設などのネットワークや個人的な宗教実践、脱伝統的宗教性が利他主義の形成に関連する可能性が示唆された。同時にこれらの宗教性がエスニシティや社会階層によって階層化されている可能性も浮かび上がった。

研究成果の概要(英文)：This research examines how religiosity is related to altruism in contemporary Taiwan using data from "Taiwan Social Change Survey". The results show that network formulated in Buddhist and Taoist temples, individual religious practices such as sitting mediation, and non-traditional religiosity such as spirituality are positively and significantly related to altruism in contemporary Taiwan. In addition to this, these religiosities were affected by sociodemographic background such as ethnicity and socio-economic statuses.

研究分野：宗教社会学 社会意識論 台湾研究

キーワード：宗教社会学 社会意識論 利他主義 台湾研究 計量的地域研究 台湾社会変遷基本調査 ボランティア 社会参加

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の社会学およびその周辺領域において、NPO やボランティアなどの「新しい公共」の研究が進んでいる。日本における「新たな」を考えるにあたっては、東アジアにおける利他主義に支えられた活動こそが、社会的要請に応えうる持続的な活動として期待できる。東アジアにおいては、家族や親族、地域共同体のみならず、伝統的な宗教に依拠したサービスネットワークが、生活問題の解決に貢献していることが指摘されている(稲場 2011)。西欧社会における公共性の基礎なす利他主義が、キリスト教的宗教倫理に根差しているとすれば、東アジアの宗教的倫理に根差した利他主義には、それとは異質なものが含まれている(三浦 2012)。そしてその基層文化としての宗教と利他主義の関連を検討することは、日本社会の公共性を論じる上でも不可欠の検討課題であることが指摘されている。

宗教と利他主義の関連を問うことは、「宗教と市民社会」という問題系を設定したトクヴィル以来の古典的課題である。特に近年では R. パットナム『孤独なボウリング』を皮切りに、宗教が形成する利他主義が社会形成に果たす役割に対する関心が高まっている。世界最大規模の国際比較調査である「世界価値観調査」の国際比較分析からも、宗教には利他主義を促進する機能があることが明らかにされている(Ruiter and De Graaf 2006)。だが、欧米・キリスト教社会と社会的・宗教的背景が大きく異なる東アジアの実証研究は、依然、今後の重要検討課題として残されたままである。

そこで研究代表者のこれまでの日本における同テーマの実証研究(寺沢 2012)をいかに、台湾を事例に、東アジア社会における宗教と利他主義の関係にかかわる計量社会学的研究を行うことを課題とする。

2. 研究の目的

本研究は、台湾を事例に、東アジア社会における宗教と利他主義の関係にかかわる計量社会学的研究を行うことを課題とする。

台湾は以下の3点において、東アジアの宗教と利他主義を検討する上で重要な地域である。台湾は、キリスト教人口が少ない(約5%)一方、仏教・道教・民間信仰などが主流宗教であるため、非キリスト教社会に属する東アジア地域の代表的ケースである。

台湾で公的社会福祉が整備され始めたのは約30年前からである。そのため、社会福祉の大部分を担ってきたのは非公的セクターであり、特に利他主義の基層構造としての宗教文化が強い影響をもっている(三浦 2010)。そのため、宗教と利他主義の興味深い関連は台湾で見いだされると思われる。

台湾には「台湾社会変遷基本調査」という重厚な二次データが存在するため、宗教と利他主義について詳細な分析が可能である。

以上を踏まえ、本研究では、多面的な宗教性(宗教参加、宗教的態度、個人的宗教行動など)がどのように社会活動参加と関連しているのかについて、近年のデータを用いて計量的に検討することを目的とした。

これまでも台湾の市民社会・福祉社会論の一環として宗教と社会事業の関連が研究されてきた。だが実証研究の多くは慈濟会などの仏教教団の社会事業の紹介・事例研究にとどまり(金子 2005)、寺廟のネットワークを基盤とした地域的互助機能や基層宗教文化は十分研究されていない。本研究は、複数の宗教的要因の相対的効果を検討することにより、台湾におけるより複眼的な宗教利他主義論を目指した。

なお本研究の過程においては、台湾における宗教社会学的研究や台湾における宗教調査についても整理、検討することになる。日本では、台湾の宗教社会学や宗教調査の動向はあまり知られていないため、整理したものをレビュー論文として発表することにより、台湾における研究動向を日本に紹介する。

3. 研究の方法

「台湾社会変遷基本調査」(Taiwan Social Change Survey) (以下、TSCS)の二次分析を行う。TSCSは、中央研究院社会学研究所(台北)を主体として、台湾全土に住む18歳以上の男女を対象に個別面接法で実施されている標本調査である。1985年の第1回調査以降、5年のローテーションで、家族・階層などのモジュールの調査が実施されている。データセットはすべて2次データとして公開されている。本研究が使用するのは、2004年実施の第4期第5次調査(TSCS-2004)と2009年実施の第5期第5次調査(TSCS-2009)である。これらは、宗教モジュールであり、宗教に関する豊富な設問が設けられているとともに、利他主義の重要な構成要素であるボランティア活動への参加に関する設問も設けられている(章・傳編 2005、傳・杜編, 2010)。

以上の二時点のデータセットを用いて、多面的宗教性とボランティア活動の関連を計量的に検討する。多面的宗教性の概念枠組みの整理と検討、データ分析の同時進行で行う。

4. 研究成果

以下では主要な研究成果について、テーマ・知見ごとにその概要を整理する。

(1) 多面的宗教性とボランティア活動

この研究成果に関しては、まず「5. 主な発表論文等[雑誌論文]」が挙げられる。

この研究では、現代台湾における多面的な宗教性とボランティア活動の関連性について分析した。使用データはTSCS-2004である。

まず台湾における宗教性を多面的に捉えるために、台湾同様、非キリスト教社会に属する日本を扱った三谷(2014)の分析枠組みを踏まえつつ、台湾における宗教性を論じた

(瞿 2006)に基づきながら、台湾における宗教性を 公的実践(寺廟等への参加、教団所属) 私的実践(祖先崇拜などの慣習的実践および気功、読経などの非慣習的実践)、信念・経験(神鬼観念、靈魂観念、因果観念、縁起観念、気功観念) 結果(宗教の重要性)に整理した。そのうえで、これらの宗教性のボランティア活動量に対する効果を検討した。分析は1)全体サンプルと2)教団(四大仏教など)所属者を除いたサンプルの両方を分析した。

結果、1)全体サンプルでは、四大仏教所属者、キリスト教・一貫道の信者、寺廟などに頻繁に訪れる回答者、読経や念仏などの非慣習的宗教実践を行う回答者がボランティア活動を行う傾向にあった。2)教団所属者を除いたサンプルでは、寺廟などに頻繁に訪れる回答者、読経や念仏などの非慣習的宗教実践を行う回答者がボランティア活動を行うことに有意な傾向が見られた。以上の結果は社会 人口学的変数や利他主義を統制した上で得られた。

以上の結果は1)台湾では私的宗教実践や寺廟にボランティア活動を促す機能がある可能性を示唆し、2)教団を介したボランティアのみならず寺廟を通じての社会参加、私的な宗教実践が個人の向社会性を高める側面に着目する必要があることを示唆するものであった。

さらに、同様の分析を TSCS-2009 で行ったものとして「5. 主な発表論文等[雑誌論文]」が関係する。

TSCS-2004 と設問が若干異なっているため厳密な時点間比較は困難であった。だが、おおよその知見は TSCS-2004 とほぼ同じであり、台湾におけるボランティア活動の宗教的規定構造は5年間の間でほとんど変化していないことが示唆された。なお TSCS-2009 では、新たにスピリチュアリティに関する設問とボランティア活動を行う場所(寺廟などの宗教施設で行うか、宗教施設以外の世俗的場所で行うか)についての設問が追加されたため、両者の関係についても分析を進めた。その結果、スピリチュアリティ志向の強さが世俗的場所でのボランティア活動参加が有意に結びついている傾向が見受けられた。この知見は、近年の脱伝統的・脱制度的宗教性が、宗教施設内でのボランティアを超えた、広がりのあるものである可能性を示すものである。

(2) 宗教性の規定構造と階層化

上述した「5. 主な発表論文等[雑誌論文]」の一環として、ボランティア活動参加と有意に結びついていた宗教施設参加頻度と非慣習的実践の規定構造(年齢、性別、学歴、職業、エスニシティーなど)についても補足的な分析を行い、どのような人々がどのような宗教性を介してボランティア活動に参加する傾向にあるのか(台湾における多面的宗教性とボランティア活動の関連がどのよう

に社会構造に埋め込まれているのか)を検討した。

おおよその結果としては、宗教施設参加頻度は閩南系本省人、低学歴者、既婚者、家族従業員、無業者で高い傾向にあり、非慣習的実践は高齢者、女性、高学歴者、経営者、雇用者で高い傾向があることが明らかになった。それぞれの宗教性の高低には社会的属性による濃淡が確認された。この結果は台湾のボランティア活動は、宗教性を媒介として階層化されている可能性を示唆する。

なお、この知見から発展した分析として、TSCS の 2000 年(TSCS-2000)、2005 年(TSCS-2005)、2010 年(TSCS-2010)のデータを用いて、学歴、職業地位、収入という3つの社会階層指標が宗教属性ごとにどのように異なり、またどのように変化しつつあるのかを分析した。主な知見は以下の5点である。1)プロテスタントと無宗教は一貫して高階層を特徴とする。2)プロテスタントと無宗教以外の宗教、特に仏教、道教、民間信仰は社会階層の指標によって結果が異なる傾向にある。3)カトリックの順位は下降傾向にある(職業地位、所得)。4)仏教の職業地位が上昇傾向にある。5)一貫道が上昇傾向にある(学歴、職業地位、収入)(「5. 主な発表論文等[雑誌論文]」)。この知見は、今日の台湾における宗教属性が、キリスト教を上層としながら階層化するとともに、道教、仏教など従来の宗教属性については台湾の社会変動の影響を受ける傾向にあることを示唆するものである。

(3) 慈済会所属者の階層とエスニシティーの変遷

上記「(2)宗教性の規定構造」から発展したテーマとして、慈済会所属者の階層とエスニシティーの変容について分析を行った(「5. 主な発表論文等[学会発表]」)。

近年の台湾を対象としたボランティア組織所属や宗教性に関する計量的研究では、いずれについてもエスニシティー差・社会階層差が見られるという知見、差は見られなくなりつつあるという知見など様々な知見が出されている。慈済会の所属者は、設立当初は閩南系本省人、自営業者などが中心だったが、その後は多様化が進んでいることが指摘されている。しかし、代表性の高いデータから慈済会信徒のエスニシティーと社会階層の多様化を確認した研究は行われていない。そこで TSCS-2004 と TSCS-2009 および 1999 の TSCS-1999 を用いて慈済会所属者の社会階層(学歴、職業、収入の三指標から構成)とエスニシティーの変遷を分析した。

結果、男性所属者では閩南系本省人に比べて外省人が有意に少ない傾向および社会階層が高い傾向は、10年間で大きく変わらない(2004年を除く)。一方、女性所属者については1999年では閩南系本省人に比べて外省人が有意に少ない傾向が見られたが、2009年

時点では有意差は確認できなかった。社会階層についても 1999 年では社会階層が有意に高かったが、それ以降、有意な関連は見られない。1999 年から 2009 年の間で、女性所属者については社会階層・エスニシティーの差は徐々に見られなくなる傾向にある。一方、男性所属者については、エスニシティー差、高階層者が多いという傾向も依然残っている。女性の場合は、慈済会は幅広い社会層の人々に開かれた団体になってきているが、男性の場合は必ずしもそうとは言い切れないことが示唆された。慈済会についても、慈済を媒介としてボランティア活動が階層化されている可能性が示唆された。

(4) 台湾の宗教社会学および宗教調査の動向研究

本課題の一環として、台湾の宗教社会学、ならびに TSCS を用いた計量的宗教社会学に関する動向研究を目的としていた。この目的に関しては、丁仁傑著『社会脈絡中的助人行為』および Richard Madsen 著 *Democracy's Dharma* という 2 冊の著作の書評論文を発表している（それぞれ「5. 主な発表論文等 [雑誌論文] の」と「」に相当）。前者は慈済会のエスノグラフィー、後者は慈済会を含む近年の台湾の宗教運動の比較研究である。いずれも近年の台湾の宗教を対象とした社会学的研究の代表的著作であり、その概要と課題点を検討した。

また TSCS を使用した計量的宗教社会学については、TSCS の宗教モジュールの整理ならびに TSCS を使用した実証研究についてのレビューを行った（「5. 主な発表論文等 [雑誌論文] の」と「」）。その結果、1) 近年の欧米の宗教社会学の理論（合理的選択理論など）を踏まえた研究、2) 宗教と様々な社会意識（政治、抗議行動、心理的ウェルビーイング、教育アスピレーション、再分配政策への態度、寄付行動など）との有意な関連を示す研究、3) 台湾と中国の比較研究など、幅広いトピックに関して TSCS を用いた知見が蓄積されつつあることが確認された。

(5) その他の発展的研究

これらの研究に基づきながら行った発展的研究として、まず台湾における日本統治時代への評価に関する社会意識論的研究が挙げられる。「台湾は親日的である」「台湾では日本の植民地時代が肯定的に評価されている」という言説は、専門を問わず多くの台湾研究者が直面する問題である。宗教についても「親日的」態度との結びつきが指摘されているなど（寺田 2009）、本研究課題を進展させる上で重要なテーマになりうる。

そこで、基礎的分析として 2003 年の TSCS を使用して台湾における日本統治時代への評価の社会的規定構造を分析した。結果、若い世代ほどエスニシティーの関連が弱まる一方、社会階層の関連が強まるといった意識

化の「地殻変動」が確認された。この結果は、今日の台湾が、族群によって分断される社会からより多元的な社会に変容しつつあることの一端を示すものであり、台湾における宗教と利他主義を今後分析する上でも示唆に富む知見であった（「5. 主な発表論文等 [雑誌論文] の」と「」）。また「台湾における日本統治時代への肯定的評価は国民党への不満や反感の裏返しである」という仮説をデータで検証したところ、国民党系の政党群への支持傾向と日本統治時代への肯定的評価はかならずしも明確に結びつかないことも明らかになった（「5. 主な発表論文等 [雑誌論文] の」と「」）。

次に、宗教とウェルビーイングに関する研究である。台湾で大きく成長した一貫道という宗教団体について、台湾同様に一貫道が大きな成長をとげた香港を対象に、高齢信者を対象としたインタビュー調査のデータを用いて、一貫道とウェルビーイングの結びつきを検討した（「5. 主な発表論文等 [雑誌論文] の」と「」）。さらに、台湾との比較分析を念頭に日本における死生観と幸福感に関する計量分析も行った（「5. 主な発表論文等 [雑誌論文] の」と「」）。

(6) 今後の展望

本研究の成果から、現代の台湾社会における宗教と利他主義の置かれた状況を理解するには、社会階層やエスニシティーと宗教の関係、およびそれらの関係の変容、さらには宗教に留まらない幅広い社会的態度の社会構造上の位置づけの問題など、台湾社会の動態を広い視野から検討する必要があることが確認された。

このようにして見いだされた新たな研究課題は、日本学術振興会科学研究費（若手研究 B）「台湾における宗教性・社会階層・精神的健康に関する社会学的研究」（研究代表者：寺沢重法、課題番号：15K20821、2015 年 4 月～2018 年 3 月（予定））として展開する運びとなった。

なお、論文や著書として未公開の研究成果については、引き続き刊行に向けて執筆を進める予定である。

[参考文献]

- 章英華・傅仰止編, 2005, 『台湾社會變遷基本調査計畫第四期第五次調査計畫執行報告』台北、中央研究院社會學研究所
- 瞿海源, 2006, 『宗教、術數與社會變遷(一) -- 台湾宗教研究、術數行為研究、新興宗教研究』台北、桂冠圖書公司
- 傅仰止・杜素豪編, 2010, 『台湾社會變遷基本調査計畫第五期第五次調査計畫執行報告』台北、中央研究院社會學研究所
- 稲場圭信, 2011, 『利他主義と宗教』弘文堂
- 金子昭, 2005, 『驚異の仏教ボランティア』白馬社
- 三谷はるよ, 2014, 「日本人の宗教性とボラン

ティア行動 非教団所属者における拡散的宗教性の影響」『ソシオロジ』第 179 号：3-18
三浦典子, 2010, 『台湾の都市高齢化と社会意識』 溪水社
寺沢重法, 2012, 「東アジアにおけるボランティアリズムと公共性」『社会分析』39：61-79
Ruiter, S and N. De Graaf, 2006, "National Context, Religiosity, and Volunteering" *American Sociological Review*, 71(2):191-210.
寺田喜朗, 2009, 『旧植民地における日系新宗教の受容 台湾生長の家のモノグラフ』 ハーベスト社
寺沢重法, 2012, 『宗教とソーシャル・キャピタルの形成に関する計量社会学的研究』平成 23 年度北海道大学提出博士論文

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 13 件)

Terazawa, Shigenori, "Multi-Dimensional Religiosity and Volunteering in Contemporary Taiwan: Analyses of the Taiwan Social Change Survey" *Asian Journal of Social Science* Vol.43 Issue.4 (SSCI, Journal Information: 5-year Impact Factor: 0.196; Ranked 54 (out of 64) in the 'Area Studies' and 80 (out of 93) in the 'Social Sciences, Inter Disciplinary' subject category according to Journal Citation Reports 2013, published by Tompson Reuters)、印刷中、査読あり、招待あり

寺沢重法、「台湾における宗教性とボランティア活動 台湾社会変遷基本調査の分析」、『北海道大学文学研究科紀要』第 146 号、頁未定、2015 年、印刷中、査読なし

寺沢重法、「東アジアにおける大規模宗教調査データの蓄積 「台湾社会変遷基本調査」を事例として」、『宗教と社会』第 21 号、頁未定、2015 年、印刷中、査読あり

寺沢重法、「現代台湾において日本統治時代を肯定的に評価しているのは誰か？」

「台湾社会変遷基本調査」の探索的分析」、『日本台湾学会報』第 16 号、頁未定、2015 年、印刷中、査読あり

伍嘉誠・寺沢重法、「香港における高齢者の主観的ウェルビーイングにおける宗教の役割 一貫道の高齢信徒へのインタビュー調査から」、『宗教と社会』第 5 号第 1 巻、1-27、2015 年、査読あり、<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/handle/11094/51352>

寺沢重法、「「泛藍陣営」非支持者は日本統治時代を肯定的に評価しているのか？」

TSCS-2003(II)の分析」、『北海道大学文学研究科紀要』第 145 号、47-77、2015 年、査読なし、<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/58316>

Terazawa, Shigenori and Ka-Shing Ng, "Religious Affiliation and Social Stratification in Taiwan (2000-2010): Analysis of Taiwan Social Change Survey" *Journal of the Graduate School of Letters*, Vol.10, 59-70, 2015 年、査読あり、<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/58208>

寺沢重法、「理系は非宗教的か？ JGSS-2002 の分析」、『藤女子大学人間生活学部紀要』第 52 号、13-28、2015 年、査読あり、<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/58468>

寺沢重法・横山忠範、「「死後の世界を信じること」と幸福感 JGSS-2008 の分析」、『宗教と社会』第 4 号第 2 巻、1-25、2014 年、査読あり、<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/handle/11094/50281>

寺沢重法、「書評 Richard Madsen 著 『Democracy's Dharma: Religious Renaissance and Political Development in Taiwan』」、『宗教と社会』第 4 号第 2 巻、31-38、2014 年、査読あり、依頼あり、<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/handle/11094/50282>

伍嘉誠・寺沢重法、「書評 丁仁傑著 『社会脈絡中的助人行為：台湾仏教慈善功德会個案研究』」、『宗教と社会』第 3 巻第 1 号、81-88、2013 年、査読あり、依頼あり、<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/dspace/handle/11094/24487>

寺沢重法、「Column 世界の調査 / 日本の調査 台湾社会変遷基本調査(TSCS)」、『社会と調査』第 10 号、121、2013 年、査読なし、依頼あり、<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/58228>

寺沢重法、「現代日本における宗教と社会活動 JGSS 累積データ 2000-2002 の分析から」、『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集』第 13 号、129-140、2013 年、査読あり、<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/52511>

[学会発表](計 10 件)

寺沢重法、「日本統治時代への肯定的評価に対する族群および社会階層の影響 パス解析を用いたコーホート別分析」、『日中社会学会第 27 回大会、2015 年 6 月 7 日予定、北海道大学札幌キャンパス(北海

道札幌市)
寺沢重法、「社会階層によって規定される宗教性とは何か? 職業階層に着目して」、日本台湾学会第17回学術大会、2015年5月23日予定、東北大学川内北キャンパス(宮城県仙台市)
寺沢重法、「『宗教と社会貢献』の研究動向の概要 トピック・方法・地域」2015年度第1回「宗教と社会貢献」研究会、2015年5月9日、國學院大学渋谷キャンパス(東京都渋谷区)

Terazawa, Shigenori, "Is Fatalism Related to a High Level of Subjective Well-Being in Japan?" 1st East Asian Conference for Young Sociologists, Yoinsei University, Seoul, Republic of Korea, 2 February, 2015

寺沢重法、「慈済会信徒のエスニシティと社会階層は多様化しているのか? TSCS-1999/2004/2009 の分析」、2014年度「宗教と社会貢献」研究会第2回研究会、2015年1月12日、関西学院大学梅田キャンパス(大阪府大阪市)

Terazawa, Shigenori and Ka-Shing Ng, "Religious Participation and Happiness in Hong Kong" Joint Workshop on Contemporary Social and Cultural Change in Taiwan and Japan in 2014 at Hokkaido University, Hokkaido University, Sapporo, Japan, 28 September, 2014

寺沢重法、「理系は非宗教的か? JGSS-2002 の分析」、日本宗教学会第73回学術大会、2014年9月13日、同志社大学今出川キャンパス(京都府京都市) 報告要旨: 寺沢重法(2015)「理系は非宗教的か? JGSS-2002 の分析」『宗教研究』88 別巻: 444-445)

寺沢重法、「伝統宗教か? 地域か? JGSS-2010 による伝統宗教・地域・社会活動参加の関連の分析」、2014年度「宗教と社会貢献」研究会第1回研究会、2014年7月13日、國學院大学渋谷キャンパス(東京都渋谷区)

寺沢重法、「日本統治時代評価意識と社会人口学的属性 「台湾社会変遷基本調査」の探索的分析」、日本台湾学会第16回学術大会、2014年5月24日、東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)

Terazawa, Shigenori, "Multidimensional Religiosity and Volunteering in Taiwan" The 32nd Congerence International Society for the Sociology of Religion, University of Turku, Turku-Abo, Finland, 28 June 2013

[図書](計 1 件)

櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編『アンビシャス社会学』北海道大学出版会、2014年、

312 ページ(寺沢重法、「第2章 社会調査法」, 23-42 を分担執筆)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

(1)TERAZAWA Shigenori(寺沢重法)'s Site
<https://sites.google.com/site/sizezhongfa/home>

(2)寺沢重法の Blog Shigenori TERAZAWA
<http://shigenori-terazawa.seesaa.net/>

(1)(2)はそれぞれ研究代表者が作成した講式ホームページとブログである。

前者には研究代表者が発表した研究成果のリストを提示している。オンライン化された成果についてはそのリンクも掲載し、多くの人が閲覧できるようにしている。また、関連する研究機関や他の研究者のホームページのリンク集も掲載している。後者のブログには、論文や学会発表という形態では発表しにくいものの、重要だと思われる様々な情報(論文や書籍、調査、データ、台湾や宗教に関するニュースなど)を適宜アップロードしている。このブログは、上記ホームページにリンクをはるとともに、Twitter や Facebook ともリンクさせている(累積約 400)。

6. 研究組織

(1)研究代表者

寺沢 重法 (TERAZAWA SHIGENORI)

北海道大学・大学院文学研究科・助教

研究者番号: 60632156

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし